熱狂の東北四大祭り

みちのく縦断　夏祭りを満喫 竿燈・ねぶた・花笠・七夕

掲載No	東京発	6AEB5C20
10	大阪発	6CEB5C20

東京・大阪発

食事
朝3、昼3、夕3

▶最少催行人員：12名

東北が一年で最も熱い時期です！　今年こそはと開催の準備を進めていることでしょう。秋田竿燈・青森ねぶた・山形花笠の各夜の祭りはすべて観覧席からじっくり見物いただけます（最終日の日中の仙台七夕まつりは自由見学）。移動の合間には八甲田山や蔵王など涼風の山岳美もどうぞ。また、3日目の青森から仙台へは新幹線利用で移動、バス座席はお一人様に2シートをご用意しますので、移動中もゆったりお過ごし下さい。

青森ねぶた祭り

ねぶた師によって1年がかりで創作された山車が街中を練り歩きます。山車の豪華絢爛さに圧倒されるとともに、ハネトと呼ばれる踊り手の「ラッセラー！」の掛け声で会場が一気に熱気で包まれます。祭の最終日にはフィナーレを飾る海上運行と花火大会が催されます。

催行決定

出発日	8月5日

旅行代金（大人おひとり様）

出発地	3人1室	2人1室	1人1室
東京発	194,000円	198,000円	218,000円
大阪発	224,000円	228,000円	248,000円

※東京・大阪の共同募集コースです。添乗員は初日新大阪駅から最終日新大阪駅まで同行します。　※利用バス会社：弘南バス、十和田観光電鉄、三八五バス、山交バス、羽後交通のいずれか　※部屋タイプ：1泊目と3泊目は洋室、2泊目は和室　※3泊目は皆様お一人様一室でシングルルーム利用となります。　※名古屋発着、現地合流についてはP59をご参照下さい。　※写真は全てイメージです。

行程

→バス　⇒航空機　…徒歩　＝列車　～船　++その他

日	東京発	大阪発
1	東京（10:20～12:20発）＝大宮＝秋田	新大阪（7:30～9:30発）＝京都＝名古屋＝東京＝大宮＝秋田
	→タクシー→秋田市内（自由に**昼竿燈**を見物）…秋田キャッスルホテル泊（早夕食後、観覧席にて美しいねぶり流し**「竿燈まつり」**を見物）	
2	午前:宿→**八甲田山**（ロープウエーで山頂駅へ）→青森・**棟方志功記念館**（青森が生んだ世界に誇る板画家の作品）→青森市内（早夕食、観覧席にて熱狂の**「ねぶた祭」**を見物）→夜:稲垣温泉・ホテル花月亭泊（奥津軽の名湯、**源泉かけ流しの宿**）	
3	午前:宿→新青森＝〔ラクラク新幹線移動〕＝仙台→**蔵王・御釜**（エメラルドグリーンに輝く神秘の湖）→夕刻:山形七日町ワシントンホテル泊（早夕食後、ホテル前の特設観覧席で艶やかな衣装と紅花をあしらった笠で踊る**「花笠まつり」**を見物、シングルルーム利用）	
4	午前:宿→仙台市内（藩祖伊達政宗公の時代から続く伝統行事**「仙台七夕まつり」**を自由見物、自由昼食）→	
	仙台＝大宮＝東京（16:00～17:30着）	仙台＝東京＝名古屋＝京都＝新大阪（19:00～20:30着）

秋田竿燈まつり

真夏の病魔や邪気を払う、ねぶり流し行事として始まったといわれています。美しい「竿燈」は小さいもので5㍍。大きいものだと12㍍にもなります。演技者が額、肩、腰にのせて技術を競い、風の動きを読みながらバランスを取り続ける様は迫力満点。まさに夜空を彩る黄金の稲穂です。

山形花笠まつり

従来の踊りは、地域によって笠をかぶっての手踊りや笠を手に持って回して踊るものなど、10種類あまりの様々な踊りがありましたが、花笠音頭パレード（これが現在の『山形花笠まつり』）開催に向けてそれらを一本化したとのことです（通称：女踊り）。その後、男踊りができ、参加者が独自に趣向を凝らした「創作花笠踊り」など多彩な踊りが加わりました。

仙台七夕まつり

仙台では七夕まつりのことを「たなばたさん」と称し、藩祖伊達政宗公が七夕に関する和歌を8首詠んでいることから、この時すでに七夕の行事があったといわれています。毎年手づくりされる高さ10㍍ほどの吹流し型の笹飾り、飾りの内容は当日まで企業秘密となっており、8月6日の朝8時頃から飾り付けが行われ、その豪華さを競い合うのです。

涼風の八甲田ロープウェー

蔵王の御釜